

AIDS 教育用印刷教材の効果 (2)

深田博己・高本雪子・深田成子

Effects of printed teaching material for AIDS education (2)

Hiromi Fukada, Yukiko Takamoto, and Seiko Fukada

エイズ教育用印刷教材である日本学校保健会 (2003) のパンフレット「AIDS 正しい理解のために高校生用エイズ教育教材」の効果を分析することを目的とした。実験計画は、事後測定法を利用した 1 要因 2 水準の実験参加者間計画であった (実験参加者 115 名)。パンフレットを提示された実験群の方が、提示されなかった統制群よりも、理論・モデルの説明力が増加するであろうという仮説は、コンドーム使用行動意思に対する集会的防護動機モデルの説明力を除けば、支持されなかった。なお、防護動機理論の説明力よりも集会的防護動機モデルの説明力の方が優れていることが確認された。

キーワード：AIDS 教育，印刷教材，内容理解，防護動機理論，集会的防護動機モデル

問 題

AIDS 教育用に作成された既成の教材がどのような効果をもつのかに関して、深田・木村 (2000) と木村 (1999, 2000) は、視聴覚教材 (ビデオ教材) を取り上げて、その効果を分析し報告した。そして、視覚教材に注目した深田・高本・深田 (2007) は、日本学校保健会 (2003) の印刷教材「AIDS 正しい理解のために 高校生用エイズ教育教材」を取り上げ、このパンフレットの効果を実験的に検討した。その結果、AIDS に関するさまざまな初期反応には、36 変数中の 23 変数で性差が広範囲に認められた。しかし、パンフレットの効果 (実験群の事後反応と統制群の初期反応の差) は、35 変数中の 5 変数 (しかもこの中に逆効果を示す 1 変数が含まれる) と、極めて一部の限定された反応で出現するにとどまった。さらに、パンフレットの効果を男女別に検討してみたが、パンフレットの効果が見られたのは、男性の場合が 35 変数中 3 変数、女性の場合が 35 変数中 4 変数に過ぎなかった。

本研究では、深田他 (2007) で行ったパンフレットの効果分析とは異なる分析の視点と手法を採用することによって、パンフレットの効果が本当に存在しないのかどうかを検討する。ここでは、2 種類の分析の視点と手法を用いる。

第 1 に、深田他 (2007) で分析対象変数として全く取り上げなかったパンフレット内容の理解の問題に焦点を当て、内容の理解がパンフレット効果にどのように関係するのかを、相関分析によっ

て検討する。すなわち、実験群においてパンフレット接触中に測定したパンフレットの内容の理解を中心とする諸変数が同じ実験群における事後測定変数とどのような関係にあるのかについて相関関係を分析する。

パンフレットの内容の理解を中心とする諸変数は、パンフレットのページごとに測定した、そのページの主題に関する事前知識、主題の全体的理解度、主題への関心度、および主題に関する個別の情報内容の理解度の合計 50 変数である。

パンフレットの効果に関しては、従属変数 35 変数を 4 つのグループに分割して捉える。すなわち、理論・モデルの枠組みとは関係のない従属変数群 9 変数、および 3 種類の HIV 対処行動意思別にまとめた理論・モデルに係る従属変数群 (8 変数×3 種類+各種類共通の 2 変数) の 4 グループである。理論・モデルの枠組みと無関係な従属変数群は、AIDS に関する主観的知識、AIDS に対する関心、AIDS に対する恐怖感情、4 種類の不適応的対処 (思考回避、運命諦観、楽観主義、信仰)、PWH/A に対する態度、PWH/A との共生行動意思の 9 変数である。理論・モデルに係る従属変数群は、3 種類の HIV 対処行動意思に共通の深刻さ認知、生起確率認知の 2 変数、および 3 種類の HIV 対処 (コンドーム使用、不特定性関係抑制、HIV 抗体検査受検) 別の反応効果性認知、反応コスト認知、自己効力認知あるいは実行能力認知、報酬認知、実行者割合認知、責任認知、規範認知、行動意思の 8 変数である。したがって、相関分析は 4 つに分割して実施する。

第 2 に、理論・モデルの説明力に変化が生じるかどうかという視点から、実験群と統制群における理論・モデルの説明力を、重回帰分析によって比較検討する。すなわち、初期反応として統制群で事前測定した理論・モデルに係る諸変数と、効果の指標として実験群で事後測定した理論・モデルに係る諸変数を利用し、それぞれの群において理論・モデルの仮定する要因を説明変数、HIV 対処行動意思を目的変数とする重回帰分析を行う。そして、理論・モデルの説明力 (決定係数: R^2) および各説明変数の影響力 (標準偏回帰係数: β) の大きさを両群間で比較する。

予防型の AIDS 教育用ビデオの効果に関して、深田・木村 (2000) は、防護動機理論の枠組みから、事前測定変数、事後測定変数、変化変数 (事後測定-事前測定) という 3 種類の変数群を利用し、理論の説明力を重回帰分析によって明らかにし、3 種類の変数群間で比較した。その結果、不特定性関係抑制・エイズ検査受検行動意思 (合成変数) とコンドーム使用行動意思という 2 種類の目的変数に対する防護動機理論の説明力は、事前測定変数の場合 9% と 12% であるのに対し、事後測定変数の場合 9% と 29% であり、コンドーム使用行動意思に対する説明力は事後測定の方が高かった。そして、有意な説明変数の数も、事前測定の場合 1 個と 1 個であるのに対し、事後測定の場合 1 個と 3 個であった。このことから、ビデオ教材を視聴することによって、防護動機理論の仮定する説明変数とコンドーム使用行動意思との関係性が強化されると示唆される。

本研究では、理論・モデルとして、防護動機理論と集成的防護動機モデルを用いる。防護動機理論は、Rogers (1975) によって提案されたが、この初期の理論では説明変数は 3 変数であった。その後、Rogers (1983) が説明変数を 7 変数に増やした修正理論を提出したが、この段階でも、恐怖感情は深刻さ認知や生起確率認知と相関関係があるだけの位置づけであった。さらに、Rogers & Prentice-Dunn (1997) は、恐怖感情が深刻さ認知や生起確率認知と相関関係にあるだけでなく、

直接防護動機に影響するという恐怖感情と対処行動意思の因果関係を仮定する方向に、理論を一部修正した。本研究では、Rogers (1983) の防護動機理論が仮定する7変数のうち、内的報酬認知と外的報酬認知を報酬認知の1変数に統合し、Rogers & Prentice-Dunn (1997) の恐怖感情を加えて、深刻さ認知、生起確率認知、報酬認知、反応効果性認知、反応コスト認知、自己効力認知、恐怖感情の7変数を説明変数とするモデルの検証を通して、パンフレットの効果を解明する(図1)。

集合的防護動機モデルは、深田・戸塚 (2001) によって提案されたモデルであり、もともと環境問題への対処のような集合的対処(個人的な対処では解決できない、多数の人が同時並行的・集合的に対処しなければならない場合)の規定因を説明するモデルであり、戸塚 (2002) にこのモデルの詳しい説明がある。しかし、高本 (2006) が指摘しているように、HIV 対処行動意思に対する説明力は、集合的防護動機モデルの方が防護動機理論よりも優れている。したがって、本研究では、集合的防護動機モデルの仮定する8変数に恐怖感情を説明変数に加えた9変数を説明変数とするモデルの検証を通して、パンフレットの効果を解明する(図2)。

本研究の目的は、日本学校保健会 (2003) の印刷教材「AIDS 正しい理解のために 高校生用エイズ教育教材」の効果を、①パンフレット内容の理解がパンフレット効果にどのように関係するのかについて、相関分析によって検討することと、②防護動機理論と集合的防護動機モデルの説明力が統制群に比べて実験群で増加するかどうかについて、重回帰分析によって比較検討することを通して解明することである。

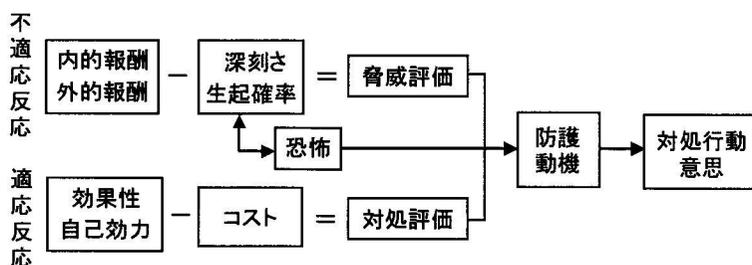


図1 修正防護動機理論における対処行動意思の認知的媒介過程 (Rogers & Prentice-Dunn, 1997)

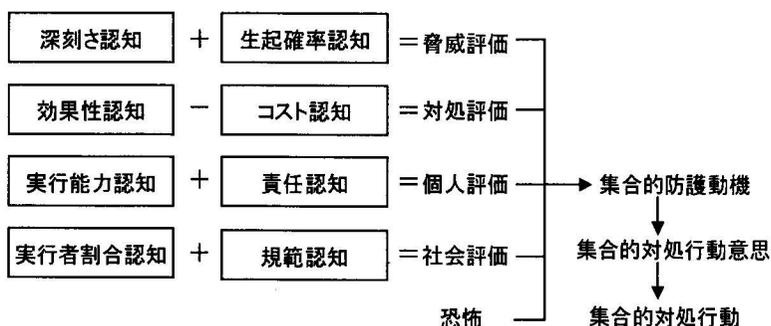


図2 集合的防護動機モデルにおける対処行動意思の認知的媒介過程 (深田・戸塚, 2001を一部修正)

方 法

方法の詳細は深田・高本（2007）で紹介したので、本報告では簡略に記述する。

1. 実験計画と実験参加者

実験計画は、1 要因 2 水準の実験参加者間計画であり、従属変数の測定は事後測定法を採用した。すなわち、印刷教材を読みながら、あるいは印刷教材を読んだ後に主要な従属変数に関する測定を行う実験群と、印刷教材を読む前に主要な従属変数の測定を行う統制群を用意した。実験参加者は、中国地方の私立大学の学部学生 115 名であり、実験群（57 名）と統制群（58 名）に無作為に配置された。

2. 実験手続き

高校生用エイズ教育教材のパンフレットに対する調査という名目で、心理学関係の授業中に授業担当教員が実験を実施した。実験群用の実験材料セットをピンク色の封筒に入れ、統制群用の実験材料を薄緑色の封筒に入れ、封筒を無作為に配付した。

3. 実験群における実験材料

(1) 事前測定

省略

(2) パンフレット接触中の測定

実験群における接触中測定は、主にパンフレットで提示された情報内容に関する実験参加者の理解度を測定するために実施された。パンフレットを 1 ページずつ読むごとに、質問紙への回答を求めた。

2～7 ページでは、各ページ「主題の事前知識」を 1 項目、「主題の全体的理解」を 1 項目、「個別の情報内容の理解」を 4 項目、2 項目、4 項目、5 項目、5 項目、3 項目、「主題への関心」を 1 項目で測定した。8 ページでは、「主題の事前知識」を 1 項目、「主題の全体的理解」を 1 項目、「個別の情報内容の理解」を 7 項目で測定した。

(3) 事後測定

実験群における事後測定は、パンフレットの効果を解明するために実施された。複数項目で測定する変数に関しては、項目間の内的整合性を α 係数を算出して確認した上で、項目平均を変数の得点として使用した。

事後測定変数は、エイズに関する主観的知識を 1 項目、エイズに対する関心を 1 項目、恐怖感情を 4 項目、PWH/A に対する態度を 5 項目、PWH/A との共生行動意思を 4 項目、コンドーム使用に関する 10 変数を各 1 項目、不特定性関係抑制に関する 10 変数を各 1 項目、HIV 抗体検査受検に関する 10 変数を各 1 項目で測定した。10 変数とは、深刻さ認知、生起確率認知、反応効果性認知、反応コスト認知、自己効力あるいは実行能力認知、報酬認知、実行者割合認知、責任認知、規範認知、行動意思であった。最初の 2 変数、深刻さ認知と生起確率認知は、3 種類の HIV 対処行動意思に共通の項目で測定した。

最後に、フェイスシート項目を 3 項目測定した。

4. 統制群における実験材料

(1) 事前測定

統制群における事前測定は、パンフレット接触前の初期反応を測定し、実験群の効果を判定する際のベースラインを確保するために実施した。基本的に、実験群における事後測定と同様の内容であった。

(2) 接触中測定

統制群における接触中測定は、実験の所要時間を実験群とそろえるために実施した。

(3) 事後測定

統制群における事後測定は、実験群と実験の進行の形式をそろえるために実施した。

結果と考察

1. パンフレット内容の理解度等およびその性差

実験群におけるパンフレット接触中の反応である 50 変数の平均と標準偏差を表 1 に示した。50 変数は、主題の事前知識、主題の全体的理解、個別的情報内容の理解、主題への関心（8 ページはなし）であった。

この 50 変数の平均と標準偏差を男女別に算出し、平均値間の性差を t 検定によって分析した。その結果、50 変数中のわずか 4 変数で有意な性差が見出されるにとどまった。「免疫機能のしくみの理解度」と「レッドリボン運動の理解度」は、男性の方が女性よりも有意に優れていたが、「世界の PWH/A の人数の理解度」と「7 ページの内容の事前知識」は、女性の方が男性よりも有意に優れていた。このように、パンフレット内容に関する事前知識、理解度、関心に性差はほとんど見られなかった。

2. パンフレット内容の理解度等と事後測定変数との相関関係

実験群におけるパンフレット接触中の反応である接触中測定変数 50 変数と、パンフレット接触後の事後測定変数 35 変数との間の相関関係を分析する。変数が多いことから、事後測定変数が意味的に 4 分割できることから、事後測定変数を 4 分割した上で、両変数群間の相関分析を実施した。

接触中測定変数 50 変数と、理論・モデルの枠組みに関係しない事後測定変数 9 変数との間の相関係数 r を算出した結果を表 2 に示した。接触中測定変数 50 変数の意味に関しては、表 1 の左欄に簡略な説明があり、深田他（2007）の方法に詳細な説明がある。接触測定変数は、2～8 のページごとに、そのページの主題に関する事前知識、主題に関する全体的理解度、複数の個別的内容の理解度、主題に対する関心度（8 ページはなし）であった。

(1) 内容理解度等と理論・モデルに無関係な従属変数との相関関係

パンフレット接触中測定変数である内容理解度等の 50 変数と、理論・モデルに無関係な従属変数 9 変数との相関係数を算出し、その結果を表 2 に示した。450 個の相関係数のうち有意な相関係数は 93 個得られた。

AIDSに関する知識は、接触中測定変数 50 変数中の 29 変数と有意な正の相関関係を示した。AIDSに関する知識は、各ページの主題に関する事前知識 7 変数中の 6 変数、各ページの主題に関する全体的理解度 7 変数中の 4 変数、各ページの内容に関する個別的理解度 30 変数中の 18 変数、各ペー

表1 実験群の接触中測定得点のM(SD)とその性差の検討：パンフレット効果の性差

	全体		男性(n=25)		女性(n=33)		t値	df
	M	SD	M	SD	M	SD		
p2-2ページの内容の事前知識	2.12	0.78	2.08	0.86	2.16	0.72	-0.36	55
p2-エイズ問題の理解	2.60	0.86	2.80	0.96	2.44	0.76	1.59	55
p2-①世界のPWH/A数の理解	3.19	0.79	2.96	0.84	3.38	0.71	-2.02	55 *
p2-②治療現状の理解	3.00	0.82	2.84	0.85	3.13	0.79	-1.30	55
p2-③日本のPWH/A数の理解	3.28	0.67	3.20	0.76	3.34	0.60	-0.80	55
p2-④年齢層・国内感染の理解	3.32	0.81	3.24	0.93	3.38	0.71	-0.62	55
p2-2ページの内容への関心	2.67	0.83	2.68	0.75	2.66	0.90	0.11	55
p3-3ページの内容の事前知識	2.30	0.80	2.40	0.82	2.22	0.79	0.85	55
p3-AIDSとは？についての理解	3.14	0.67	3.20	0.76	3.09	0.59	0.59	55
p3-①発病のしくみの理解	2.88	0.83	2.96	0.93	2.81	0.74	0.65	44.83
p3-②免疫機能のしくみの理解	2.79	0.82	3.12	0.83	2.53	0.72	2.86	55 **
p3-3ページの内容への関心	2.89	0.79	3.12	0.83	2.53	0.72	0.21	55
p4-4ページの内容の事前知識	2.60	0.70	2.92	0.81	2.88	0.79	0.79	55
p4-感染するとどうなるか？の理解	3.25	0.61	2.68	0.75	2.53	0.67	0.82	55
p4-①潜伏期の理解	3.26	0.74	3.32	0.63	3.19	0.59	0.87	55
p4-②前段階の症状の理解	3.16	0.70	3.00	0.71	3.28	0.68	-1.52	55
p4-③AIDS発病の理解	3.00	0.73	2.92	0.70	3.06	0.76	-0.73	55
p4-④早期発見・早期治療の理解	3.40	0.75	3.32	0.75	3.47	0.76	-0.74	55
p4-4ページの内容への関心	3.02	0.81	3.04	0.84	3.00	0.80	0.18	55
p5-5ページの内容の事前知識	2.42	0.68	2.28	0.61	2.53	0.72	-1.40	55
p5-どのようにしてうつるかについての理解	3.39	0.67	3.40	0.71	3.38	0.66	0.14	55
p5-①感染経路の理解	3.23	0.73	3.28	0.74	3.19	0.74	0.47	55
p5-②日本のPWH/Aの年齢構成の理解	3.49	0.54	3.56	0.51	3.44	0.56	0.85	55
p5-③性感染症であることの理解	3.51	0.66	3.44	0.65	3.56	0.67	-0.69	55
p5-④クラミジア流行の理解	3.12	0.85	3.20	0.82	3.06	0.88	0.60	55
p5-⑤他の感染症との関係についての理解	2.98	0.90	3.04	0.84	2.94	0.95	0.43	55
p5-5ページの内容への関心	3.09	0.79	3.08	0.81	3.09	0.78	-0.06	55

注1 *** $p < 0.01$ ** $p < 0.05$ * $p < 0.10$

表1 実験群の接触中測定得点のM(SD)とその性差の検討：パンフレット効果の性差(続き)

	全体		男性(n=26)		女性(n=33)		t値	df
	M	SD	M	SD	M	SD		
p6-6ページの事前知識	3.05	0.72	3.12	0.73	3.00	0.72	0.62	55
p6-予防方法の理解	3.53	0.66	3.48	0.71	3.56	0.62	-0.47	55
p6-①コンドームによる予防方法の理解	3.40	0.80	3.28	0.79	3.50	0.80	-1.03	55
p6-②注射器共用の危険性の理解	3.56	0.63	3.44	0.65	3.66	0.60	-1.30	55
p6-③複数相手との性交の危険性の理解	3.68	0.60	3.56	0.71	3.78	0.49	-1.33	40.79
p6-④基本的エチケットの理解	3.42	0.63	3.44	0.58	3.41	0.67	0.20	55
p6-⑤感染力の弱さの理解	3.70	0.50	3.72	0.46	3.69	0.54	0.24	55
p6-6ページの内容への関心	3.23	0.76	3.16	0.75	3.28	0.77	-0.60	55
p7-7ページの内容の事前知識	2.02	0.83	1.76	0.78	2.22	0.83	-2.12	55 *
p7-PWH/Aへの偏見・差別の理解	2.98	0.74	2.92	0.64	3.03	0.82	-0.56	55
p7-①レッドリボン運動の理解	3.14	0.72	3.36	0.64	2.97	0.74	2.10	55 *
p7-②メモリアルキルトについての理解	2.72	0.84	2.64	0.81	2.78	0.87	-0.63	55
p7-③知識の重要性の理解	3.53	0.63	3.48	0.71	3.56	0.56	-0.49	55
p7-7ページの内容への関心	3.23	0.87	3.12	0.83	3.31	0.90	-0.83	55
p8-8ページの内容の事前知識	2.60	0.70	2.60	0.71	2.59	0.71	0.03	55
p8-エイズQ&Aの理解	3.49	0.60	3.48	0.65	3.50	0.57	-0.12	55
p8-①同じ学校にPWH/Aについての理解	3.65	0.55	3.60	0.58	3.69	0.54	-0.59	55
p8-②会話や手の接触の非危険性の理解	3.75	0.43	3.76	0.44	3.75	0.44	0.09	55
p8-③蚊やダニでは感染しないことの理解	3.68	0.57	3.64	0.70	3.72	0.46	-0.51	55
p8-④HIV抗体検査についての理解	3.39	0.73	3.52	0.65	3.28	0.77	1.24	55
p8-⑤検査を受けるべきかについての理解	3.46	0.60	3.44	0.65	3.47	0.57	-0.18	55
p8-⑥検査で陰性であることの理解	3.39	0.70	3.44	0.58	3.34	0.79	0.53	54.87
p8-⑦ピルの性感染症予防の理解	3.65	0.61	3.68	0.56	3.63	0.66	0.33	55

注1 ***p<0.01 **p<0.05 *p<0.10

表2 実験群のみの接触中測定変数と事後測定変数(理論・モデルと無関係な変数)の単純相関関係

	AIDS知識	AIDS関心	AIDS恐怖	思考回避	運命諦観	楽観主義	信仰	PWH/A態度	共生行動意思
p2事前知識	.36**	-.01	-.02	.14	-.14	.01	-.16	.20	.10
p2理解全体	.10	.03	-.18	-.22	.24 [†]	.02	-.11	.32*	.16
p2理解①	.21	.19	-.14	-.12	.11	.08	-.17	.03	.21
p2理解②	.16	.17	-.08	-.09	-.13	.00	-.20	-.02	.12
p2理解③	.41**	.22	-.21	-.20	-.05	.04	-.24 [†]	.15	.15
p2理解④	.12	.15	-.22 [†]	-.09	.06	-.01	-.03	.12	.19
p2関心	.12	.64***	.01	-.27*	.05	-.18	-.21	.30*	.34*
p3事前知識	.43**	.00	.07	-.03	-.12	-.05	-.13	.11	.10
p3理解全体	.33**	.14	.07	-.10	-.10	-.05	-.18	-.15	-.05
p3理解①	.32*	.08	-.02	-.23 [†]	-.13	-.12	-.34*	-.03	.02
p3理解②	.26*	.12	-.04	-.36**	-.05	-.08	-.22 [†]	.11	.06
p3関心	.14	.60***	.12	-.13	-.22	-.36**	-.19	.19	.13
p4事前知識	.44**	.12	-.03	.06	-.28*	-.04	-.23 [†]	.03	.17
p4理解全体	.29*	.11	.03	-.04	-.04	-.06	-.10	.03	.03
p4理解①	.50***	.25 [†]	.09	-.14	-.38**	-.14	-.20	.09	.11
p4理解②	.32*	.22	-.04	-.05	-.01	-.04	-.12	.18	.20
p4理解③	.26*	.22 [†]	-.25 [†]	-.26 [†]	.06	-.03	-.03	.04	.15
p4理解④	.10	.16	-.10	-.08	.04	.07	.03	.02	.16
p4関心	.08	.63***	.09	-.13	-.19	-.26 [†]	-.14	.27*	.27*
p5事前知識	.45***	.11	.09	-.10	-.24 [†]	-.02	-.27*	.07	.15
p5理解全体	.25 [†]	.21	.04	-.13	.02	.07	-.16	.13	.24 [†]
p5理解①	.28*	.15	-.01	-.25 [†]	-.15	-.10	-.16	.09	.05
p5理解②	.29*	.43**	.08	-.08	-.06	-.14	-.23 [†]	.16	.19
p5理解③	.29*	.20	-.06	-.14	-.08	-.03	-.17	.24 [†]	.15
p5理解④	.48***	.33*	.13	-.22 [†]	-.33*	-.34*	-.37**	.29*	.20
p5理解⑤	.32*	.37**	-.06	-.10	-.14	-.23 [†]	-.17	.30*	.23 [†]
p5関心	.27*	.75***	.06	-.25 [†]	-.05	-.29*	-.15	.37**	.40**
p6事前知識	.37**	.25 [†]	.00	-.19	-.28*	-.04	-.26 [†]	.15	.15
p6理解全体	.30*	.39**	.05	-.21	-.19	-.20	-.34**	.17	.19
p6理解①	.18	.15	-.27*	.05	.01	.16	.15	.08	.12
p6理解②	.33*	.17	-.02	.06	-.04	.00	-.10	.14	.09
p6理解③	.11	.24 [†]	-.10	.03	-.11	-.07	-.12	.18	.07
p6理解④	.28*	.25 [†]	-.04	-.20	.11	.10	-.14	.29*	.34*
p6理解⑤	.01	.20	-.07	-.17	-.18	-.12	-.22	.10	.08
p6関心	.19	.63***	.02	-.17	-.06	-.22 [†]	-.22	.39**	.27*
p7事前知識	.23 [†]	.27*	-.06	.22	-.03	.13	-.05	.16	.13
p7理解全体	.12	.17	-.03	-.01	.06	.09	.08	.21	.13
p7理解①	.31*	.22	.03	-.22 [†]	.02	-.12	-.13	.38**	.33*
p7理解②	.24 [†]	.26*	-.06	-.07	.14	.03	-.03	.30*	.34*
p7理解③	.11	.37**	-.09	-.12	-.06	-.17	-.05	.41**	.29*
p7関心	.24 [†]	.62***	.00	-.08	-.12	-.28*	-.19	.64***	.39**
p8事前知識	.44**	.21	.01	-.16	-.40**	-.04	-.33*	.07	.13
p8理解全体	.42**	.32*	.02	-.35**	-.26*	-.29*	-.32*	.16	.10
p8理解①	.40**	.30*	-.09	-.25 [†]	-.23 [†]	-.23 [†]	-.25 [†]	.22 [†]	.15
p8理解②	.26 [†]	.18	-.15	-.21	-.19	-.25 [†]	-.24 [†]	.24 [†]	.10
p8理解③	.23 [†]	.32*	-.12	-.23 [†]	-.23 [†]	-.24 [†]	-.37**	.14	.26 [†]
p8理解④	.28*	.16	.05	-.28*	-.04	-.07	-.25 [†]	.12	.12
p8理解⑤	.15	.33*	-.01	-.17	.07	-.15	-.16	.30*	.06
p8理解⑥	.29*	.32*	-.09	-.23 [†]	-.01	-.07	-.15	.25 [†]	.14
p8理解⑦	.31*	.27*	-.04	-.19	-.17	-.21	-.22 [†]	.25 [†]	.23 [†]

注1 *** $p < .01$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

注2 縦罫のデータが接触中測定, 横罫のデータが事後測定

ジの主題に対する関心度 6 変数中の 1 変数と、それぞれ有意な正の相関関係を示した。すなわち、AIDS 知識が多いほど、各ページの主題に関する事前知識、主題に関する全体的理解度、複数の個別的内容の理解度、主題に対する関心度は高いという関係が得られた。AIDS に関する知識とこのようにした有意な相関係数の割合は、主題に関する事前知識で最も大きく、次いで主題に関する全体的理解度と個別的理解度で大きく、主題に対する関心度で最も小さかった。知識と事前知識の間に最も明瞭な正の相関関係が存在することも、知識と内容理解の間に次に明瞭な正の相関関係が存在することも当然の結果であり、本研究の測定の信頼性を証明していると判断できる。

AIDSに関する関心は、接触中測定変数 50 変数中の 19 変数と有意な正の相関関係を示した。AIDS に関する関心は、主題に関する事前知識 7 変数中の 1 変数、主題に関する全体的理解度 7 変数中の 2 変数、内容に関する個別的理解度 30 変数中の 10 変数、主題に対する関心度 6 変数中の 6 変数と、それぞれ有意な正の相関関係を示した。すなわち、AIDS への関心が高いほど、各ページの主題に関する事前知識、主題に関する全体的理解度、複数の個別的内容の理解度、主題に対する関心度は高いという関係が得られた。AIDS に対する関心とこのようにした有意な相関係数の割合は、主題に対する関心度で最も大きく、次いで主題に関する全体的理解度と個別的理解度であり、主題に関する事前知識で最も小さかった。AIDS への関心と内容への関心度の間に最も明瞭な正の相関関係が存在すること、内容理解度との間にある程度の正の相関関係が存在することは、本研究の測定の信頼性を裏付けるものであると言える。

AIDS に対する恐怖感情は、接触中測定変数 50 変数中の 1 変数と有意な負の相関関係を示しただけであった。すなわち、恐怖感情は、コンドームによる予防方法の理解度を抑制することが示されたにとどまった。このことから、AIDS に対する恐怖感情は、パンフレット内容の理解度や関心度に全く関係しないと言ってよいだろう。

不適応的対処である、思考回避、運命諦観、楽観主義、信仰は、それぞれ接触中測定変数 50 変数中の 4 変数、6 変数、5 変数、7 変数と有意な負の相関関係を示した。4 種類の不適応的対処は、主題に関する事前知識 5 変数、主題に関する全体的理解度 5 変数、内容に関する個別的理解度 8 変数、主題に関する関心度 4 変数と有意な負の相関関係を示した。しかし、これら 4 種類の不適応的対処に共通して有意な負の相関関係を示した変数は、「エイズ Q&A 全体的理解度」変数のみであった。AIDS に対する不適応的対処傾向とパンフレット内容に関する事前知識、理解度、関心度との関係性はほとんど見られない。

PWH/A に対する態度は、接触中測定変数 50 変数中の 13 変数と有意な正の相関関係を示した。PWH/A に対する態度は、主題に関する事前知識 7 変数中の 0 変数、主題に関する全体的理解度 7 変数中の 1 変数、内容に関する個別的理解度 30 変数中の 8 変数、主題に対する関心度 6 変数中の 5 変数と、それぞれ有意な正の相関関係を示した。すなわち、PWH/A に対する態度が肯定的であるほど、各ページの主題に関する全体的理解度、複数の個別的内容の理解度、主題に対する関心度は高いという関係が得られた。PWH/A に対する態度とこのようにした有意な相関係数の割合は、主題に対する関心度で最も大きく、次いで主題に関する個別的理解度であり、全体的理解度で極めて小さかった。これより、PWH/A に対する態度が肯定的であるほど、パンフレットに対する関心が高

く、パンフレットの内容の理解度もある程度高いという関係が判明した。

PWH/A との共生行動意思は、接触中測定変数 50 変数中の 9 変数と有意な正の相関関係を示した。PWH/A との共生行動意思は、主題に関する事前知識 7 変数中の 0 変数、主題に関する全体的理解度 7 変数中の 0 変数、内容に関する個別的理解度 30 変数中の 4 変数、主題に対する関心度 6 変数中の 5 変数と、それぞれ有意な正の相関関係を示した。すなわち、PWH/A との共生行動意思が強いほど、各ページの複数の個別的内容の理解度、主題に対する関心度は高いという関係が得られた。PWH/A との共生行動意思とのこうした有意な相関係数の割合は、主題に対する関心度で最も大きく、主題に関する個別的理解度で非常に小さかった。これより、PWH/A との共生行動意思が強いほど、パンフレットに対する関心度が高く、若干パンフレットの内容の理解度も高いという関係が判明した。

(2) 内容理解度等とコンドーム使用に関連する諸変数との相関関係

パンフレット接触中測定変数である内容理解度等の 50 変数と、理論・モデルに関係する従属変数のうちのコンドーム使用に関連する 10 変数（うち 2 変数は 3 種類の対処に共通の変数）との相関係数を算出し、その結果を表 3 に示した。500 個の相関係数のうち有意な相関係数は 42 個得られた。3 種類の対処に共通の 2 変数分の相関係数 100 個を除くと、400 個の相関係数のうち有意な相関係数は 41 個得られたことになる。

HIV/AIDS の深刻さ認知は、接触中測定変数 50 変数中のわずか 1 変数と有意な正の相関関係を示した。深刻さ認知が高いほど、1 つの主題「感染するとどうなるか？」の全体的理解度が高くなることが見出されたが、深刻さ認知はパンフレットの内容理解度などとほとんど無関係であることが判明した。

HIV/AIDS の生起確率認知は、接触中測定変数 50 変数のいずれとも有意な相関関係を示さなかった。生起確率認知はパンフレットの内容理解度などと全く無関係であることが分かった。

コンドーム使用の効果性認知は、接触中測定変数 50 変数中の 23 変数と有意な正の相関関係を示した。コンドーム使用の効果性認知は、各ページの主題に関する事前知識 7 変数中の 1 変数、各ページの主題に関する全体的理解度 7 変数中の 3 変数、各ページの内容に関する個別的理解度 30 変数中の 13 変数、各ページの主題に対する関心度 6 変数中の 6 変数と、それぞれ有意な正の相関関係を示した。すなわち、コンドーム使用の効果性認知が高いほど、各ページの主題に関する事前知識、主題に関する全体的理解度、複数の個別的内容の理解度、主題に対する関心度は高いという関係が得られた。コンドーム使用の効果性認知とのこうした有意な相関係数の割合は、主題に対する関心度で最も大きく、次いで主題に関する全体的理解度と個別的理解度で大きく、主題に関する事前知識で最も小さかった。コンドーム使用の効果性認知が高いほど、パンフレットに関する関心度や内容理解度が高いという関係が実証された。

コンドーム使用のコスト認知は、接触中測定変数 50 変数中の 4 変数（各ページの内容に関する個別的理解度 30 変数中の 4 変数）と有意な負の相関関係を示した。すなわち、コンドーム使用のコスト認知が高いほど、複数の個別的内容の理解度が低いという関係が得られた。コンドーム使用のコスト認知は高いほど、パンフレット内容の個別的理解度が低いという関係が得られたが、この

表3 実験群のみの接触中測定変数と事後測定変数（コンドーム使用関連変数）の単純相関関係

	深刻さ	生起確率	効果性	コスト	能力	報酬	割合	責任	規範	行動意思
p2事前知識	.15	-.01	.22	-.03	-.03	.10	.21	-.11	-.03	-.10
p2理解全体	-.21	.19	.05	.10	-.08	.13	.00	-.01	.02	.06
p2理解①	.03	-.02	.38**	-.28*	.33*	-.24 [†]	.05	.11	.03	.26 [†]
p2理解②	.08	.00	.15	-.11	.13	.00	-.05	.06	.03	-.05
p2理解③	.03	-.07	.27*	-.12	.09	.18	-.07	.10	-.06	.05
p2理解④	.03	-.06	.10	-.17	.14	-.08	.17	.11	.15	.07
p2関心	-.17	.13	.29*	-.03	.01	-.15	.04	.20	.40**	.14
p3事前知識	-.06	-.06	.24 [†]	-.04	-.04	.10	.25 [†]	.00	-.05	.06
p3理解全体	.17	-.10	.27*	.04	.03	.05	-.12	.01	.00	.12
p3理解①	.14	-.12	.27*	-.18	.15	-.18	-.03	.10	.08	.23 [†]
p3理解②	-.03	.02	.32*	-.17	.14	-.25 [†]	.05	.26*	.02	.31*
p3関心	.00	.22 [†]	.30*	.12	-.16	-.02	.08	.18	.40**	.17
p4事前知識	.16	.02	.15	-.03	.09	.12	.13	-.12	-.14	-.05
p4理解全体	.26*	.09	.11	.06	-.16	.12	-.06	-.06	.16	-.09
p4理解①	.25 [†]	-.16	.31*	-.03	.06	.08	-.13	-.07	.07	.06
p4理解②	.13	-.03	.19	-.11	.04	.06	-.08	.02	.04	.07
p4理解③	-.03	-.06	.21	-.09	-.04	.03	-.18	.11	-.06	.06
p4理解④	.06	-.07	.06	-.09	.12	-.21	-.06	.15	-.11	.08
p4関心	.03	.13	.28*	.01	-.05	-.08	.11	.24 [†]	.36**	.25 [†]
p5事前知識	.20	-.01	.35**	-.22	.19	-.03	.07	.07	.11	.07
p5理解全体	.14	.01	.23 [†]	-.07	.04	.05	-.04	.11	.15	.00
p5理解①	.09	.07	.28*	-.05	.00	-.02	.04	.22 [†]	.25 [†]	.20
p5理解②	.13	.04	.24 [†]	.02	-.01	-.01	-.25 [†]	.01	.10	.11
p5理解③	.07	.10	.45**	-.18	.09	-.07	.10	.19	.33*	.14
p5理解④	.16	-.13	.45**	-.26*	.22 [†]	-.18	.06	.15	.38**	.25 [†]
p5理解⑤	.00	.24 [†]	.26 [†]	-.15	.13	-.10	-.13	.14	.08	.15
p5関心	-.12	.12	.38**	-.10	.04	-.13	-.03	.13	.43**	.22
p6事前知識	.03	.01	.17	-.04	.05	.08	-.11	.04	.03	.02
p6理解全体	.10	-.06	.33*	-.10	.07	-.05	-.19	.20	.22 [†]	.06
p6理解①	.11	.01	.25 [†]	-.14	.18	-.11	.00	.11	.18	.02
p6理解②	.26 [†]	.08	.28*	-.13	.11	-.10	.02	.16	.24 [†]	.00
p6理解③	.19	.07	.02	-.03	-.01	-.07	-.08	.08	.14	-.10
p6理解④	-.11	.05	.14	-.09	.04	-.04	.08	.03	.05	.04
p6理解⑤	.09	.01	.04	.07	-.09	.04	-.18	.17	.12	-.01
p6関心	-.03	.07	.31*	-.10	.00	-.08	-.02	.22	.48**	.11
p7事前知識	.11	-.07	.16	-.05	-.14	.19	-.13	-.11	.03	-.16
p7理解全体	.06	-.09	.11	.05	-.12	-.05	.05	.20	.21	.01
p7理解①	-.03	.14	.17	.03	-.01	.12	-.11	.12	.29*	.20
p7理解②	.08	.03	.19	-.06	-.04	.13	-.10	-.08	.21	.01
p7理解③	-.04	.01	.10	-.04	-.05	.03	-.20	.17	.05	.10
p7関心	-.11	.08	.31*	-.14	.12	-.19	.08	.22 [†]	.34**	.21
p8事前知識	.20	-.07	.24 [†]	-.16	.09	.08	-.13	-.05	-.21	.01
p8理解全体	.00	-.04	.42**	-.21	.08	-.18	-.19	.23 [†]	.13	.20
p8理解①	.08	.03	.31*	-.29*	.18	-.11	-.10	.24 [†]	.27*	.16
p8理解②	.00	-.02	.13	-.29*	.22	-.11	-.13	.02	.25	.08
p8理解③	.12	.04	.18	-.22 [†]	.13	.06	-.24 [†]	-.01	.11	.08
p8理解④	-.03	-.02	.26 [†]	-.07	-.07	.11	-.19	.03	.07	.03
p8理解⑤	-.15	.13	.28*	-.08	.04	-.04	.06	.24 [†]	.28*	.23 [†]
p8理解⑥	-.16	.01	.40**	-.23 [†]	.15	-.10	.00	.11	.24 [†]	.19
p8理解⑦	.00	.00	.33*	-.30	.21	-.10	-.09	.08	.13	.24 [†]

注1 *** $p<.01$ ** $p<.01$ * $p<.05$ † $p<.10$

注2 縦罫のデータが接触中測定、横罫のデータが事後測定

関係は明瞭ではなかった。

Condom使用の自己効力認知（実行能力認知）、 Condom使用の責任認知、 Condom使用の行動意思は、いずれも、接触中測定変数 50 変数中の 1 変数（各ページの内容に関する個別的理解度 30 変数中の 1 変数）と有意な正の相関関係を示しただけであった。 Condom使用の自己効力認知（実行能力認知）、責任認知、行動意思が高いほど、1 項目に限り個別的理解度が高いという結果であり、 Condom使用の自己効力認知（実行能力認知）、責任認知、行動意思は、パンフレット内容の理解度とほとんど無関係であることが分かった。

Condom不使用の報酬認知と Condom使用の実行者割合認知は、どちらも、接触中測定変数 50 変数のいずれとも有意な相関関係を示さなかった。 Condom不使用の報酬認知と実行者割合認知はパンフレットの内容理解度などと全く無関係であることが分かった。

Condom使用の規範認知は、接触中測定変数 50 変数中の 11 変数と有意な正の相関関係を示した。 Condom使用の規範認知は、各ページの内容に関する個別的理解度 30 変数中の 5 変数、各ページの主題に対する関心度 6 変数中の 6 変数と、それぞれ有意な正の相関関係を示した。すなわち、 Condom使用の規範認知が高いほど、各ページの複数の個別的内容の理解度、主題に対する関心度は高いという関係が得られた。このように、 Condom使用の規範認知が高いほど、パンフレットに関する関心度が高く、いくらか内容の個別的理解度が高いという関係が明らかになった。

(3) 内容理解度等と不特定性関係抑制に関連する諸変数との相関関係

パンフレット接触中測定変数である内容理解度等の 50 変数と、理論・モデルに係する従属変数のうちの不特定性関係抑制に関連する 10 変数（うち 2 変数は 3 種類の対処に共通の変数）との相関係数を算出し、その結果を表 4 に示した。500 個の相関係数のうち有意な相関係数は 31 個得られた。3 種類の対処に共通の 2 変数分の相関係数 100 個を除くと、400 個の相関係数のうち有意な相関係数は 30 個得られたことになる。

不特定性関係抑制の効果性認知は、接触中測定変数 50 変数中の 11 変数と有意な相関関係を示した。不特定性関係抑制の効果性認知は、各ページの主題に関する事前知識 7 変数中の 1 変数と有意な負の相関関係を、各ページの主題に関する全体的理解度 7 変数中の 1 変数、各ページの内容に関する個別的理解度 30 変数中の 5 変数、各ページの主題に対する関心度 6 変数中の 4 変数と、それぞれ有意な正の相関関係を示した。不特定性関係抑制の効果性認知は、主にパンフレットの内容に対する関心と関係することが明らかになった。

不特定性関係抑制のコスト認知、自己効力認知（実行能力認知）、不特定性関係非抑制の報酬認知は、接触中測定変数 50 変数のいずれとも有意な相関関係を示さなかった。パンフレットの内容理解等とは、不特定性関係抑制のコスト認知、自己効力認知（実行能力認知）、不特定性関係非抑制の報酬認知と無関係であると分かった。

不特定性関係抑制の実行者割合認知は、接触中測定変数 50 変数中の 2 変数と有意な相関関係を示した。すなわち、不特定性関係抑制の実行者割合認知は、主題に関する事前知識 7 変数中 1 変数と有意な負の相関関係を、内容の個別的理解度 30 変数中 1 変数と有意な正の相関関係を示した。このように、不特定性関係抑制の実行者割合認知とパンフレットの内容理解度等との関係はほとんど

表4 実験群のみの接触中測定変数と事後測定変数（不特定性関係抑制関連変数）の単純相関関係

	深刻さ	生起確率	抑制 効果性	抑制 コスト	抑制 能力	抑制 報酬	抑制 割合	抑制 責任	抑制 規範	抑制 行動意思
p2事前知識	.15	-.01	-.01	-.09	.07	.05	.04	.10	.09	-.04
p2理解全体	-.21	.19	.11	.00	-.07	.03	-.08	-.03	-.02	.02
p2理解①	.03	-.02	.27	-.16	.11	.02	.21	.09	.05	.09
p2理解②	.08	.00	.09	.13	-.13	.07	-.03	-.17	-.18	-.31*
p2理解③	.03	-.07	-.02	-.06	-.02	.15	-.07	-.12	-.04	-.12
p2理解④	.03	-.06	.10	.08	-.24 [†]	.25 [†]	.11	-.10	-.15	-.24 [†]
p2関心	-.17	.13	.38**	.04	.09	-.04	.01	.15	.29*	.08
p3事前知識	-.06	-.06	-.12	-.01	.00	.08	-.01	-.05	.03	-.01
p3理解全体	.17	-.10	.15	.04	.10	-.07	-.03	.15	.01	.03
p3理解①	.14	-.12	.07	-.23 [†]	.14	-.07	-.16	.14	-.07	.02
p3理解②	-.03	.02	-.01	-.12	-.02	.00	-.04	.16	-.09	-.11
p3関心	.00	.22 [†]	.24 [†]	.16	.06	.00	.09	.22	.29*	.13
p4事前知識	.16	.02	-.28*	.13	-.24 [†]	.09	-.22	-.20	-.21	-.26 [†]
p4理解全体	.26*	.09	.14	.12	-.10	.07	.02	-.06	-.01	-.18
p4理解①	.25 [†]	-.16	-.13	.14	-.04	.08	-.11	.16	-.03	-.15
p4理解②	.13	-.03	.27*	-.14	.23 [†]	-.09	.23 [†]	.42**	.20	.18
p4理解③	-.03	-.06	.13	-.12	.06	-.02	.09	.11	.05	.03
p4理解④	.06	-.07	.23 [†]	-.09	.08	.04	.12	.19	-.07	.11
p4関心	.03	.13	.43**	.06	.07	.05	.12	.26	.27*	.14
p5事前知識	.20	-.01	-.16	-.09	.05	-.06	-.01	.18	.07	.02
p5理解全体	.14	.01	.31*	.05	-.05	-.10	-.02	.13	-.03	-.13
p5理解①	.09	.07	.23 [†]	.03	.01	-.15	.09	.23 [†]	.12	.03
p5理解②	.13	.04	-.06	.03	.01	-.02	-.15	-.02	-.06	.01
p5理解③	.07	.10	.05	-.09	.06	-.09	.12	.10	.23 [†]	.05
p5理解④	.16	-.13	-.10	-.14	.09	.00	.01	.12	.18	-.06
p5理解⑤	.00	.24 [†]	.04	.04	.05	.06	.01	.09	.00	-.06
p5関心	-.12	.12	.33*	-.03	.14	-.12	.08	.16	.32*	.15
p6事前知識	.03	.01	-.08	.04	-.09	.04	-.24 [†]	-.06	-.18	-.14
p6理解全体	.10	-.06	.14	-.01	-.02	.05	-.12	.04	.03	-.08
p6理解①	.11	.01	.25	-.19	.08	-.01	.30*	.15	.10	.03
p6理解②	.26 [†]	.08	.34**	-.16	.19	-.09	.12	.35**	.22	.12
p6理解③	.19	.07	.38**	-.11	.25 [†]	-.15	.10	.40**	.09	.23 [†]
p6理解④	-.11	.05	.06	-.06	-.05	.05	.03	.00	.00	-.01
p6理解⑤	.09	.01	.10	.11	-.09	.08	-.15	.16	-.05	-.02
p6関心	-.03	.07	.28*	.00	.07	.03	.06	.06	.32*	.10
p7事前知識	.11	-.07	-.01	.01	.02	.07	.04	.11	.18	.11
p7理解全体	.06	-.09	.08	-.01	.04	.17	.18	.29*	.25 [†]	.17
p7理解①	-.03	.14	.11	.00	-.02	.16	.00	.19	.08	.11
p7理解②	.08	.03	.25 [†]	-.11	.14	-.05	.11	.35**	.25 [†]	.22
p7理解③	-.04	.01	.26*	-.01	.12	-.01	.01	.29*	.08	.26*
p7関心	-.11	.08	.19	-.05	.18	-.04	.07	.28*	.36**	.25 [†]
p8事前知識	.20	-.07	-.21	.13	-.18	.09	-.28*	.00	-.23 [†]	-.09
p8理解全体	.00	-.04	.03	-.08	.08	-.08	.01	.21	.08	.01
p8理解①	.08	.03	.02	-.03	.00	.03	-.01	.16	.07	.03
p8理解②	.00	-.02	-.08	.03	-.05	.12	-.03	.03	.02	-.03
p8理解③	.12	.04	-.06	.12	-.10	-.06	-.11	.08	-.08	-.11
p8理解④	-.03	-.02	-.01	-.02	-.08	.09	-.10	-.05	-.05	-.07
p8理解⑤	-.15	.13	.27*	-.04	.10	.00	.03	.29*	.19	.36**
p8理解⑥	-.16	.01	.19	-.14	.10	-.07	.17	.20	.14	.13
p8理解⑦	.00	.00	.02	-.03	-.07	-.03	-.08	.05	-.05	-.01

注1 *** $p < .01$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

注2 縦罫のデータが接触中測定、横罫のデータが事後測定

見られなかった。

不特定性関係抑制の責任認知は、接触中測定変数 50 変数中の 8 変数と有意な正の相関関係を示した。すなわち、不特定性関係抑制の責任認知は、主題に関する全体的理解度 7 変数中 1 変数、内容の個別的理解度 30 変数中 6 変数、主題に対する関心度 6 変数中 1 変数と有意な正の相関関係を示した。このように、不特定性関係抑制の責任認知とパンフレットの内容理解度等との関係はほとんど見られなかった。

不特定性関係抑制の規範認知は、接触中測定変数 50 変数中の 6 変数と有意な正の相関関係を示した。すなわち、不特定性関係抑制の規範認知は、主題に対する関心度 6 変数中 6 変数と有意な正の相関関係を示し、規範認知が高いほど、主題に対する関心度が高いという関係が得られた。したがって、不特定性関係抑制の規範認知は、パンフレットの内容に対する関心度と関係することが判明した。

不特定性関係抑制の行動意思は、接触中測定変数 50 変数中の 3 変数と有意な相関関係を示した。すなわち、不特定性関係抑制の行動意思は、内容の個別的理解度 30 変数中 2 変数と有意な正の相関関係、1 変数と負の相関関係を示した。このように、不特定性関係抑制の行動意思は、パンフレットの内容理解度等とほとんど関係がないことが分かった。

(4) 内容理解度等と HIV 抗体検査受検に関連する諸変数との相関関係

パンフレット接触中測定変数である内容理解度等の 50 変数と、理論・モデルに係る従属変数のうちの HIV 抗体検査受検に関連する 10 変数（うち 2 変数は 3 種類の対処に共通の変数）との相関係数を算出し、その結果を表 5 に示した。500 個の相関係数のうち有意な相関係数は 72 個得られた。3 種類の対処に共通の 2 変数分の相関係数 100 個を除くと、400 個の相関係数のうち有意な相関係数は 71 個得られたことになる。

HIV 抗体検査受検の効果性認知は、接触中測定変数 50 変数中の 5 変数と有意な正の相関関係を示した。すなわち、HIV 抗体検査受検の効果性認知は、内容の個別的理解度 30 変数中 4 変数、主題に対する関心度 6 変数中 1 変数と有意な正の相関関係を示した。このように、HIV 抗体検査受検の効果性認知とパンフレットの内容理解度等との関係はほとんど見られなかった。

HIV 抗体検査受検のコスト認知は、接触中測定変数 50 変数中の 11 変数と有意な負の相関関係を示した。すなわち、HIV 抗体検査受検のコスト認知は、主題に関する全体的理解度 7 変数中 2 変数、内容の個別的理解度 30 変数中 8 変数、主題に対する関心度 6 変数中 1 変数と有意な負の相関関係を示した。このように、HIV 抗体検査受検のコスト認知が高いほど、パンフレット内容の個別的理解度が低くなるという弱い関係のあることが分かった。

HIV 抗体検査受検の自己効力認知（実行能力認知）は、接触中測定変数 50 変数中の 9 変数と有意な正の相関関係を示した。すなわち、HIV 抗体検査受検の自己効力認知（実行能力認知）は、主題に関する全体的理解度 7 変数中 1 変数、内容の個別的理解度 30 変数中 6 変数、主題に対する関心度 6 変数中 2 変数と有意な正の相関関係を示した。このように、HIV 抗体検査受検のコスト認知が高いほど、パンフレット内容の個別的理解度が低くなるという弱い関係のあることが分かった。

HIV 抗体検査非受検の報酬認知は、接触中測定変数 50 変数中の 18 変数と有意な負の相関関係を

表5 実験群のみの接触中測定変数と事後測定変数（HIV抗体検査受検関連変数）の単純相関関係

	深刻さ	生起確率	検査受検 効果性	検査受検 コスト	検査受検 能力	検査受検 報酬	検査受検 割合	検査受検 責任	検査受検 規範	検査受検 行動意思
p2事前知識	.15	-.01	.09	.08	.11	-.31*	.31*	.11	.11	.14
p2理解全体	-.21	.19	-.13	.17	-.03	-.01	.11	.10	.14	.08
p2理解①	.03	-.02	.00	-.05	.12	-.10	.08	.03	.04	.10
p2理解②	.08	.00	-.03	-.29*	.07	-.09	.09	-.05	-.04	.17
p2理解③	.03	-.07	.06	-.05	.08	-.12	-.04	.07	.07	-.01
p2理解④	.03	-.06	.01	-.32*	.18	-.04	.03	-.06	.03	.16
p2関心	-.17	.13	.03	-.16	.21	-.25 [†]	.16	.27*	.30*	.45***
p3事前知識	-.06	-.06	-.01	.06	.05	-.25 [†]	.32*	.03	.07	.13
p3理解全体	.17	-.10	-.07	.09	-.12	-.06	-.06	.03	.00	.01
p3理解①	.14	-.12	.05	.03	.06	-.28*	.05	.08	.01	.15
p3理解②	-.03	.02	.00	-.19	.11	-.24 [†]	.01	.03	.07	-.01
p3関心	.00	.22 [†]	.02	.00	.11	-.31*	.25 [†]	.17	.46***	.36
p4事前知識	.16	.02	.10	-.14	.07	-.32*	.18	-.16	-.01	.08
p4理解全体	.26*	.09	.05	-.19	.16	-.08	.12	.04	.22	.12
p4理解①	.25 [†]	-.16	-.03	-.04	-.09	-.28*	-.08	-.06	-.04	.06
p4理解②	.13	-.03	.31*	-.26 [†]	.28*	-.02	.20	.25 [†]	.24 [†]	.27*
p4理解③	-.03	-.06	.06	-.24 [†]	.21	-.05	.11	.15	.13	.19
p4理解④	.06	-.07	.06	.01	.01	-.09	-.13	.03	-.12	.21
p4関心	.03	.13	.25 [†]	-.14	.27 [†]	-.33*	.16	.33*	.39**	.50***
p5事前知識	.20	-.01	.26 [†]	-.12	.16	-.33*	.12	.16	.18	.11
p5理解全体	.14	.01	.07	-.24 [†]	.17	-.08	-.03	.23 [†]	.22	.14
p5理解①	.09	.07	.11	-.18	.07	-.20	.09	.27*	.30*	.28*
p5理解②	.13	.04	-.06	-.10	.01	-.12	-.07	.00	-.06	.14
p5理解③	.07	.10	.18	-.25 [†]	.19	-.23 [†]	.14	.17	.16	.07
p5理解④	.16	-.13	.19	-.21	.06	-.37**	-.08	.05	.03	.06
p5理解⑤	.00	.24 [†]	.18	-.14	.16	-.23 [†]	.11	.10	.12	.27*
p5関心	-.12	.12	.16	-.19	.24 [†]	-.32*	.11	.26 [†]	.33*	.39**
p6事前知識	.03	.01	-.02	-.20	.16	-.46***	.08	.06	.17	.14
p6理解全体	.10	-.06	.18	-.29*	.23 [†]	-.31*	.06	.27*	.25 [†]	.19
p6理解①	.11	.01	.22 [†]	-.24 [†]	.06	.01	.14	.25 [†]	.01	.24 [†]
p6理解②	.26 [†]	.08	.16	-.14	.12	-.02	.07	.32*	.27*	.21
p6理解③	.19	.07	.14	-.19	.17	-.06	.09	.26 [†]	.21	.28*
p6理解④	-.11	.05	.28*	-.34*	.48***	-.19	.18	.07	.16	.12
p6理解⑤	.09	.01	.16	-.36*	.33*	-.25 [†]	.16	.22	.23 [†]	.14
p6関心	-.03	.07	.32*	-.29*	.32*	-.34*	.09	.27 [†]	.32*	.18
p7事前知識	.11	-.07	.26 [†]	-.03	.19	-.19	.09	.24 [†]	.20	.03
p7理解全体	.06	-.09	.31*	-.29*	.27*	-.03	.10	.12	.14	.11
p7理解①	-.03	.14	.09	-.07	.08	.00	.02	.16	.33*	.30*
p7理解②	.08	.03	.30*	-.17	.27*	.01	.19	.27*	.29*	.15
p7理解③	-.04	.01	.18	-.23 [†]	.27*	-.15	.02	.14	.26 [†]	.14
p7関心	-.11	.08	.22 [†]	-.05	.28*	-.29*	.05	.18	.34*	.22
p8事前知識	.20	-.07	-.03	-.10	.15	-.42**	-.04	.03	.05	.15
p8理解全体	.00	-.04	-.01	-.20	.17	-.29*	-.02	.19	.26 [†]	.07
p8理解①	.08	.03	.09	-.31*	.26 [†]	-.22	-.05	.20	.25 [†]	.10
p8理解②	.00	-.02	.04	-.29*	.17	-.22	-.04	.05	.16	.03
p8理解③	.12	.04	.03	-.27*	.18	-.13	-.13	.08	.16	.05
p8理解④	-.03	-.02	.07	-.19	.13	-.33*	.01	.12	.13	.04
p8理解⑤	-.15	.13	.16	-.22	.30*	-.18	.23 [†]	.37**	.34*	.17
p8理解⑥	-.16	.01	.14	-.29*	.17	-.34*	.08	.25 [†]	.24 [†]	.19
p8理解⑦	.00	.00	.05	-.21	.24 [†]	-.31*	.00	.15	.10	.09

注1 *** $p < .01$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

注2 縦罫のデータが接触中測定, 横罫のデータが事後測定

示した。すなわち、HIV抗体検査非受検の報酬認知は、主題に関する知識7変数中5変数、主題に関する全体的理解度7変数中2変数、内容の個別的理解度30変数中6変数、主題に対する関心度6変数中5変数と有意な負の相関関係を示した。このように、HIV抗体検査非受検の報酬認知が高いほど、パンフレットの内容に関する知識、関心度が低く、全体的理解度、個別的理解度もやや低いという関係が見出された。

HIV抗体検査受検の実行者割合認知は、接触中測定変数50変数中の2変数（主題に関する事前知識）と有意な正の相関関係を示した。すなわち、HIV抗体検査非受検の実行者割合認知が高いほど、パンフレットの内容に関する事前知識が多いという関係があったが、この関係はそれほど明瞭ではなかった。

HIV抗体検査受検の責任認知は、接触中測定変数50変数中の7変数と有意な正の相関関係を示した。すなわち、HIV抗体検査受検の責任認知は、主題に関する全体的理解度7変数中1変数、内容の個別的理解度30変数中4変数、主題に対する関心度6変数中2変数と有意な正の相関関係を示した。このように、HIV抗体検査受検の責任認知が高いほど、パンフレットの内容に対する関心度が高いという弱い関係が得られた。

HIV抗体検査受検の規範認知は、接触中測定変数50変数中の11変数と有意な正の相関関係を示した。すなわち、HIV抗体検査受検の規範認知は、内容の個別的理解度30変数中5変数、主題に対する関心度6変数中6変数と有意な正の相関関係を示した。このように、HIV抗体検査受検の規範認知が高いほど、パンフレットの内容に対する関心度が高いという関係が得られた。

HIV抗体検査受検の行動意思は、接触中測定変数50変数中の8変数と有意な正の相関関係を示した。すなわち、HIV抗体検査受検の行動意思は、内容の個別的理解度30変数中5変数、主題に対する関心度6変数中3変数と有意な正の相関関係を示した。このように、HIV抗体検査受検の規範認知が高いほど、パンフレットの内容に対する関心度が高いという関係が得られた。

(5) まとめ

内容理解度を中心とするパンフレット接触中の測定変数50変数との間に多くの有意な相関係数が得られた理論・モデルに無関係な事後測定変数は、AIDSに関する知識(29個)とAIDSに対する関心(19個)のほかには、PWH/Aに対する態度(13個)とPWH/Aとの共生行動意思(9個)であった。パンフレットの内容に対する関心度とPWH/Aに対する態度およびPWH/Aとの共生行動意思との正の相関関係が最も顕著であり、パンフレットの内容に対して高い関心をもった者ほど、PWH/Aに対する態度が肯定的であり、PWH/Aとの共生行動意思が強いという関係が解明された。

同様に、内容理解度を中心とするパンフレット接触中の測定変数50変数とのあいだに多くの有意な相関係数が得られた理論・モデルに関係する事後測定変数は、コンドーム使用に関連する変数の場合、効果性認知(23個)が断然多く、次いで規範認知(11個)であり、行動意思(1個)は少なかった。パンフレットの内容に対する関心度と効果性認知および規範認知との正の相関関係が顕著で、パンフレットの内容の理解度と効果性認知の正の相関関係もある程度明瞭であった。すなわち、パンフレットの内容に対して高い関心をもった者ほど、コンドーム使用の効果性認知と規範認

知が高く、パンフレットの内容の理解度が高い者ほど、コンドーム至当の効果性認知が高いという関係が明らかとなった。

また、パンフレット接触中の測定変数 50 変数との間に比較的多くの有意な相関係数が得られた不特定関係抑制に関連する変数は、効果性認知 (11 個) と責任認知 (8 個) であり、行動意思は少なかった (3 個)。パンフレットの内容の理解度と効果性認知および責任認知の正の相関関係がやや多く見られるに過ぎず、両変数群間の関係はあまり明瞭ではなかった。

さらに、パンフレット接触中の測定変数 50 変数との間に比較的多くの有意な相関係数が得られた HIV 抗体検査受検に関連する変数は、報酬認知 (18 個)、コスト認知 (11 個)、規範認知 (11 個)、自己効力 (実行能力) 認知 (9 個)、行動意思 (8 個) であった。パンフレットの内容に関する事前知識や関心度と HIV 抗体検査非受検の報酬認知との間に負の相関関係が、パンフレットの内容の理解度と HIV 抗体検査非受検の報酬認知および受検のコスト認知との間にいくらかの負の相関関係が、規範認知および自己効力 (実行能力) 認知との間にいくらかの正の相関関係が、パンフレットの内容に対する関心度と行動意思の間にいくらかの正の相関関係が見られたが、これらの関係はそれほど明瞭ではなかった。

以上のように、パンフレット接触中の反応と強い相関関係を示した事後測定変数は少なかった。

3. 防護動機理論と集成的防護動機モデルの説明力

(1) 防護動機理論の説明力

実験群の事後測定変数および統制群の事前測定変数を利用し、コンドーム使用行動意思、不特定関係抑制行動意思、HIV 抗体検査受検行動意思のそれぞれを目的変数とし、深刻さ認知、生起確率認知、効果性認知、コスト認知、自己効力認知、報酬認知、恐怖感情を説明変数とする重回帰分析によって、防護動機理論の説明力を分析した結果を表 6 に示した。

実験群における防護動機理論の説明力 (調整済みの R^2) は、コンドーム使用行動意思に対して 40%、不特定関係抑制行動意思に対して 37%、HIV 抗体検査受検行動意思に対して 15%であっ

表 6 防護動機理論の説明力 (強制投入法による重回帰分析結果)

	実験群(事後測定)			統制群(事前測定)		
	コンドーム 使用意思	不特定性関 係抑制意思	HIV抗体検査 受検意思	コンドーム 使用意思	不特定性関 係抑制意思	HIV抗体検査 受検意思
深刻さ	-.15	.01	-.08	.06	.02	.14
生起確率	.13	.15	.29*	.10	.22*	.26**
効果性	.29*	.16	-.02	-.01	.05	.47***
コスト	.09	-.04	-.14	-.26 [†]	-.11	-.04
自己効力	.42*	.62**	.13	.31*	.59***	.42**
報酬	-.16	.07	-.22 [†]	-.31*	-.25*	-.11
恐怖感情	.21 [†]	-.07	.15	.07	.09	.01
R^2	.47***	.45***	.26*	.49***	.53***	.62***
$adj-R^2$.40***	.37***	.15*	.42***	.46***	.56***

注1 *** $p < .01$ ** $p < .01$ * $p < .05$ [†] $p < .10$

た。他方、統制群における防護動機理論の説明力（調整済みの R^2 ）は、コンドーム使用行動意思に対して 42%、不特定性関係抑制行動意思に対して 46%、HIV 抗体検査受検行動意思に対して 56% であった。防護動機理論の説明力は、コンドーム使用行動意思の場合は実験群と統制群で差が見られなかったが、不特定性関係抑制行動意思の場合は統制群の方が実験群よりもやや大きく、HIV 抗体検査受検行動意思の場合は統制群の方が実験群よりも明らかに大きかった。本研究で得られたこうした結果は、予測と逆方向のものであり、パンフレットを読むことが、防護動機理論の説明力を高めるであろうという仮説は支持されなかった。

7 つの説明変数の影響力（標準偏回帰係数）に関しても、実験群と統制群で差が見られた。コンドーム使用行動意思に対して、実験群では自己効力認知と効果性認知が有意な影響力をもったが、統制群では自己効力認知と報酬認知が有意な影響力をもった。また、不特定性関係抑制行動意思に対して、実験群では自己効力認知のみが有意な影響力をもったが、統制群では自己効力認知のほかに報酬認知と生起確率認知が有意な影響力をもった。さらに、HIV 抗体検査受検行動意思に対して、実験群では生起確率認知が有意な影響力をもったが、統制群では効果性認知、自己効力認知、生起確率認知が有意な影響力をもった。

新たに追加した恐怖感情は、実験群でも統制群でも 3 種類の対処に対して有意な影響力を示さなかった。

(2) 集会的防護動機モデルの説明力

同様に、実験群の事後測定変数および統制群の事前測定変数を利用し、コンドーム使用行動意思、不特定性関係抑制行動意思、HIV 抗体検査受検行動意思のそれぞれを目的変数とし、深刻さ認知、生起確率認知、効果性認知、コスト認知、実行能力認知、実行者割合認知、責任認知、規範認知、恐怖感情を説明変数とする重回帰分析によって、集会的防護動機モデルの説明力を分析した結果を表 7 に示した。

実験群における集会的防護動機モデルの説明力（調整済みの R^2 ）は、コンドーム使用行動意思に対して 58%、不特定性関係抑制行動意思に対して 65%、HIV 抗体検査受検行動意思に対して 37% であった。他方、統制群における防護動機理論の説明力（調整済みの R^2 ）は、コンドーム使用行動意思に対して 38%、不特定性関係抑制行動意思に対して 73%、HIV 抗体検査受検行動意思に対して 61% であった。防護動機理論の説明力は、コンドーム使用行動意思の場合は実験群の方が統制群よりも明らかに大きかったが、不特定性関係抑制行動意思の場合は統制群の方が実験群よりもやや大きく、HIV 抗体検査受検行動意思の場合は統制群の方が実験群よりも明らかに大きかった。本研究で得られたこうした結果は、コンドーム使用行動意思の場合のみ予測と一致しているが、不特定性関係抑制行動意思と HIV 抗体検査受検行動意思の場合は予測と逆方向のものであり、パンフレットを読むことが、防護動機理論の説明力を高めるであろうという仮説は支持されなかったと言える。

9 つの説明変数の影響力（標準偏回帰係数）に関しても、実験群と統制群で差が見られた。コンドーム使用行動意思に対して、実験群では責任認知と実行能力認知が有意な影響力をもったが、統制群では実行能力認知と責任認知のほかにコスト認知が有意な影響力をもった。また、不特定性関係抑制行動意思に対して、実験群では責任認知と規範認知が有意な影響力をもったが、統制群では

表7 集会的防護動機モデルの説明力（強制投入法による重回帰分析結果）

	実験群(事後測定)			統制群(事前測定)		
	コンドーム 使用意思	不特定性関 係抑制意思	HIV抗体検査 受検意思	コンドーム 使用意思	不特定性関 係抑制意思	HIV抗体検査 受検意思
深刻さ	-.09	-.03	-.05	.06	.01	.06
生起確率	.13	.12	.22	.07	.14 [†]	.28**
効果性	.18	.07	-.15	.00	.02	.41***
コスト	-.09	-.04	-.24	-.29*	-.14	-.04
実行能力	.39*	.14	-.14	.41*	.28**	.35**
実行者割合	.00	-.01	.27 [†]	-.02	.06	.09
責任	.44***	.48***	.46**	.25*	.56***	.17
規範	.04	.29*	.00	.03	.12	.12
恐怖感情	.21*	-.13	.14	.05	-.03	-.03
<i>R</i> ²	.65***	.71***	.47***	.48***	.77***	.67***
<i>adj-R</i> ²	.58***	.65***	.37***	.38***	.73***	.61***

注1 *** $p < .01$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

責任認知と実行能力認知が有意な影響力をもった。さらに、HIV 抗体検査受検行動意思に対して、実験群では責任認知のみが有意な影響力をもったが、統制群では効果性認知、実行能力認知、生起確率認知が有意な影響力をもった。

なお、実験群におけるコンドーム使用行動意思に対して、恐怖感情が有意な影響力をもつことが確認できた。

(3) まとめ

パンフレットを呈示された実験群の方が、パンフレットに接していない統制群よりも、理論・モデルの説明力が増加するであろうという仮説は、コンドーム使用行動意思に対する集会的防護動機モデルの説明力の場合を除けば、支持されなかった。

集会的防護動機モデルの説明力は、防護動機理論の説明力よりも、概して優れていることが示された。実験群における3種類の対処行動意思に対する説明力は、防護動機理論の場合が40%、37%、15%であったが、集会的防護動機モデルの場合が58%、65%、37%であり、すべての対処行動意思に関して集会的防護動機モデルの説明力が防護動機理論の説明力を上回っていた。また、統制群における3種類の対処行動意思に対する説明力は、防護動機理論の場合が42%、46%、56%であったが、集会的防護動機モデルの場合が38%、73%、61%であり、コンドーム使用行動意思とHIV抗体検査受検行動意思に対する説明力には防護動機理論と集会的防護動機モデルの間に差は見られなかったが、不特定性関係抑制行動意思に対する説明力は集会的防護動機モデルの説明力が防護動機理論の説明力を上回っていた。こうした本研究の結果は、高本（2006）の結果と一致する。

なお、集会的防護動機モデルの説明変数である責任認知が防護動機理論の説明変数である自己効力認知と同等の影響力を示したことは特筆すべきことである。本来、個人的対処と考えられがちなHIV対処行動が実は個人対処の枠を超えて、集会的対処（多数の人々が並行的・集会的に行う対処）

の性質を帯びていることが改めて証明されたと解釈できる。

したがって、今後、HIV/AIDS問題を取り上げ、HIV対処行動の規定因を探り、AIDS教育用教材の開発を目指す際には、集合的防護動機モデルの適用が望ましいと考える。

引用文献

深田博己・木村堅一 (2000). エイズ予防行動意思に及ぼす恐怖—脅威アピールの効果—ビデオ教材の効果分析— 日本社会心理学会第41回大会発表論文集, 492-493.

深田博己・高本雪子 (2007). HIV対処行動意思に及ぼすAIDSに関する知識、関心、および恐怖感情の影響 広島大学心理学研究, 7, 印刷中.

深田博己・高本雪子・深田成子 (2007). AIDS教育用印刷教材の効果 (1) 広島大学心理学研究, 7, 印刷中.

深田博己・戸塚唯氏 (2001). 環境配慮行動意思を改善する説得技法の開発 未公刊資料

木村堅一 (1999). エイズ教育に効果的な視聴覚教材の開発に関する基礎研究 (1) —防護動機理論からの視聴覚教材の内容分析— 中国四国心理学会論文集, 32, 114.

木村堅一 (2000). エイズ教育に効果的な視聴覚教材の開発に関する基礎研究 (2) —視聴覚教材の効果分析— 日本社会心理学会第41回大会発表論文集, 494-495.

日本学校保健会 (2003). AIDS正しい理解のために 高校生用エイズ教育教材 (11版) (財) 日本学校保健会

Rogers, R. W. (1975). A protection motivation theory of fear appeals and attitude change. *Journal of Psychology*, 91, 93-114.

Rogers, R. W. (1983). Cognitive and physiological processes in fear appeals and attitude change: A revised theory of protection motivation. In J. T. Cacioppo & R.E. Petty (Eds.), *Social psychophysiology*. New York: Guilford Press. Pp.153-176.

Rogers, R. W., & Prentice-Dunn, S. (1997). Protection motivation theory. In D. S. Gochman (Ed.), *Handbook of health behavior research. Vol.1. Personal and social determinants*. New York: Plenum Press. pp.113-132.

高本雪子 (2006). HIV対処行動意思に及ぼすAIDS教育の影響過程—防護動機理論と集合的防護動機モデルに基づく分析— 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 (教育人間科学関連領域), 55, 267-276.

戸塚唯氏 (2002). 環境問題に対する集合的対処行動意図の規定因 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 (教育人間科学関連領域), 51, 229-238.

〔付記〕本研究は、平成17年度～平成19年度科学研究費補助金基盤研究(C) (研究課題番号: 17530451, 研究科題名: エイズ患者との共生およびエイズ感染予防を促進するエイズ教育用教材の開発, 研究代表者: 深田博己) による助成を受けて実施した。